

まちづくり交付金 事後評価シート  
氏家駅周辺地区

平成22年3月

栃木県さくら市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	栃木県	市町村名	さくら市	地区名	氏家駅周辺地区			面積	5.4ha
交付期間	平成17年度～21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	538.7百万円	国費率	0.4		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名								
	基幹事業		道路(市道改良事業6路線)、高質空間形成施設(eプラザ周辺整備)								
	提案事業		まちづくり活動推進事業(街なか住民活動等支援、イベント助成)								
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	基幹事業		市道改良事業5路線		JRR東日本との施行協定の結果、交付期間内の施行ができないため			指標3に影響した			
	提案事業		街なか住民活動等支援		住民活動を実施する組織の立ち上げが困難なため			影響なし			
新たに追加した事業		基幹事業		エレベーター整備		氏家駅東西自由通路の利用者の安全対策のため			その他の数値指標を追加した		
提案事業		なし									
交付期間の変更		当初	平成17年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
		変更	変更なし								

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	指標2		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	駅利用者	万人/年	200	H15	220	H21	210	x	あり	あり	駅東口広場でのイベントやeプラザ周辺整備を実施したが、駅利用者の増加につながるほどの効果は出なかった。また、アンダーパスの拡幅工事が交付期間中に完成しないなどの要因もあり、駅利用者の増加にはつながらなかった。ただし、駅東西自由通路へエレベーターを設置したことにより、駅利用者の安全性の向上につながった。	H22年8月	
指標2	イベント回数	回/年	4	H15	12	H21	13	-	あり	あり	まち交で大きなイベントを実施したことで、一定のまちの賑わいの創出につながったと思われる。	H22年4月	
指標3	アンダーパス交通量	台/日	800	H15	900	H21	計測不能	-	あり	あり	交付期間中に事業が完成しないため、指標の計測が出来なかった。しかし、長年の懸案事項であった道路拡幅の工事着手により、完成後の歩行者の安全性、円滑な交通性の向上が図られると期待されている。		
指標4	アンダーパス冠水頻度	回/年	3	H15	0	H21	計測不能	-	あり	あり	交付期間中に完成できないが、長年の懸案事項であった道路拡幅の工事着手により、完成後の防災性の向上が図られると期待されている。		

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度 <sup>1)</sup>	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	その他の数値指標2		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	駅東口市営駐車場利用台数	台/年	21,614	H16				23,379				定期的な駅利用者のほか、eプラザ利用者や各種イベントなどに参加する利用者が増えたと思われる。	H22年4月
その他の数値指標2	eプラザ利用回数(武番館)	回/年	52	H16				146				eプラザ周辺の景観・機能の向上が図られたことにより、付加価値が高まり、利用の増加につながったと思われる。	H22年4月
その他の数値指標3	駅東西自由通路を安全安心に利用した回数	回/月	0	H16				10,600				自由通路へのエレベーターの設置により、歩行者の安全性、公共交通機関の利便性、駅東西の連携が強化された。	H22年4月

4) 定性的な効果発現状況

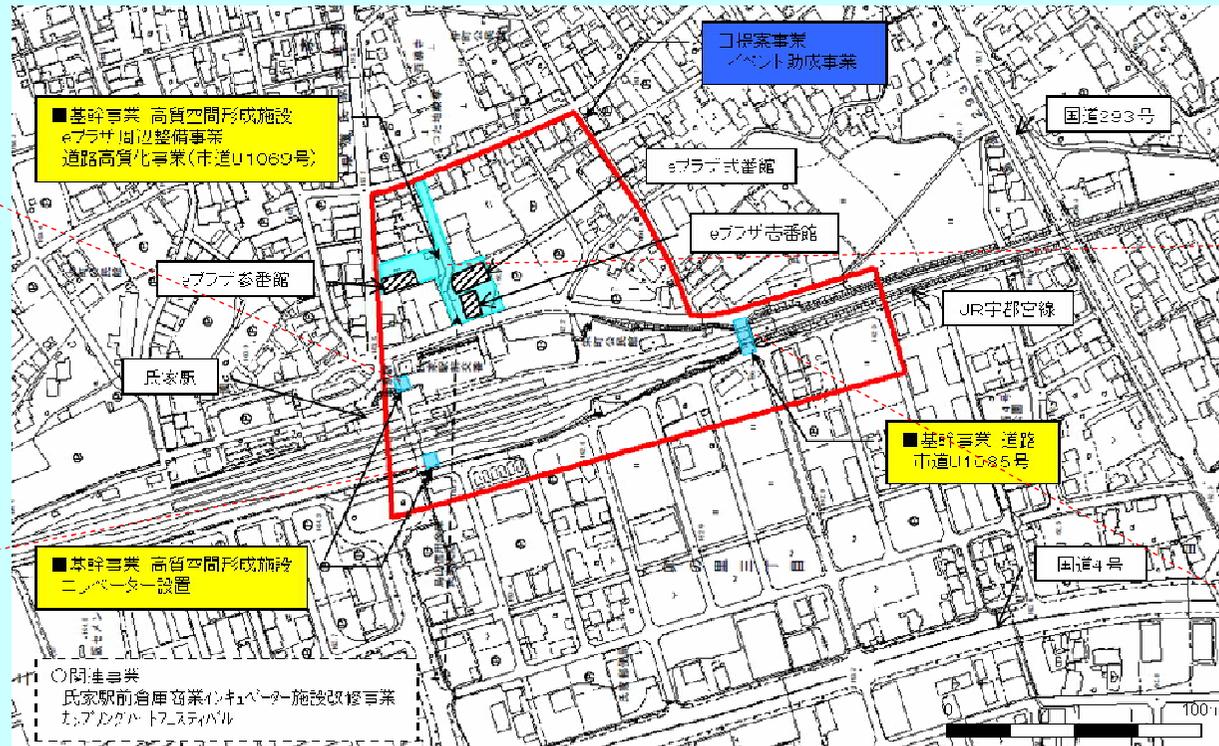
- エレベーターの設置により、駅や駅東西自由通路の利便性・安全性が高まった。
- eプラザ周辺道路の改良工事により、駅周辺の回遊性が高まった。また、歩行者天国によりイベント開催の場所にもなった。
- 長年の地元の懸案事項であったアンダーパスの拡幅工事に着手することができたことにより、アンダーパスの安全で円滑な交通への期待感が高まっている。

5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	住民参加プロセス	モニタリング	評価値	
モニタリング			都市再生整備計画に記載し、実施できた		今後も地元住民が望むまちづくりを進めていく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	市道改良工事に伴う地元説明会		都市再生整備計画に記載し、実施できた		今後も地元住民が望むまちづくりを進めていく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築			都市再生整備計画に記載し、実施できた		今後も地元住民が望むまちづくりを進めていく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

## 様式2 - 2 地区の概要

氏家駅周辺地区(栃木県さくら市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
市の中心となる中心市街地の賑わいと活性の復興を図り、市全体の健全な発展を推進させる。	駅利用者	単位: 万人/年	200 H15	220 H21	210 H21
	イベント回数	単位: 回/年	4 H15	12 H21	13 H21
	アンダーパス交通量	単位: 台/日	800 H15	900 H21	- H21
	アンダーパス冠水頻度	単位: 回/年	3 H15	0 H21	- H21



### まちの課題の変化

- ・地元における長年の課題であった駅東西を結ぶ狭隘の既存アンダーパス拡幅工事に着手することができた。
- ・また、駅東西自由通路へエレベーターが設置され、利用者の安全性・利便性の向上や駅東西の連携強化が図られた。
- ・まちなかの交流拠点であるeプラザ周辺における機能・景観・回遊性向上が図られた。

### 今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- ・駅周辺施設の安全性・利便性を高めるための機能充実を図る。
- ・地域住民や来街者が利用するまちなかの交流場所の機能を強化し、まちなかの賑わいと活性の復興を図る。